

史跡加曾利貝塚の調査研究について

1 今後の調査研究体制について

(1) 平成29年度からの調査研究体制

- ・新たな博物館を整備するまで、市埋蔵文化財調査センターで調査研究を進める。
- ・総括報告書の編集執筆体制を移行し、調査研究体制を構築する。
- ・市内の埋蔵文化財調査を担当する職員とは別に専任の職員を置く。
(平成29年度担当 正規専門職員：1名、非常勤嘱託調査研究員：3名)
- ・史跡加曾利貝塚の継続的な発掘調査と成果の公表を中心に、他の貝塚の発掘調査、出土資料の再整理等も計画的に進めていく。
- ・大学や研究機関との連携研究を積極的に進めていく。

(2) 将来の体制整備に向けた検討

- ・平成29年度に策定するグランドデザインの中で、調査研究体制を含め、新たな博物館の運営体制について検討し、その方針を設定する。
- ・グランドデザインに基づき平成30年度以降に策定する新たな博物館の基本計画の中で、将来的な調査研究体制について具体的に提示する。
- ・検討は史跡保存整備委員会に諮りながら進めていく。

2 平成29年度 調査研究事業（案）

(1) 発掘調査計画の策定

- ・総括報告書の成果に基づき新たな発掘調査に着手していくため、中長期的な発掘調査計画を策定する。

①史跡加曾利貝塚調査研究部会の設置（平成29・30年度設置）

部会委員 考古学分野の史跡保存整備委員会委員を中心に3～4名程度

検討内容 平成29年度 発掘調査計画（10年間）

平成30年度 調査研究計画（10年間）

②計画策定のための基礎データの収集

レーザー測量 貝塚の高まりを表現できる精度の高い地形測量図の作成

地中レーダー探査 貝層・遺構、過去の調査トレンチ等の把握

【新たな発掘調査により解明すべき課題】

- ①旧調査地点を再調査して正確な位置を確認し、貝層や遺構の形成時期を確定する。
- ②時期ごとの集落の構造と範囲を明らかにする。
- ③北貝塚と南貝塚の貝層の形成過程を明らかにする。
- ④坂月川に面した斜面地から低地にかけての遺構・包含層の広がりを把握する。
- ⑤低地の調査成果に基づき、古環境を復原する。

(2) 発掘調査の着手

- ・調査研究部会での検討および文化庁との協議を踏まえ、中長期的な発掘調査計画に位置づけた上で実施する。
- ・着手にあたっては、事前に史跡保存整備委員会の了承を得る。
- ・発掘調査および整理作業は、埋蔵文化財調査センターが実施する。
- ・発掘調査および水洗・選別等の基礎整理の過程を公開し、定期的に見学会を開催する

(3) 縄文土器製作技術研究の充実

- ・加曽利貝塚博物館の開館当初から取り組んできた縄文土器製作技術の研究について、平成 27 年度から専任の非常勤嘱託研究員を置き、再開している。
- ・研究成果については、加曽利貝塚博物館での企画展示、研究紀要で公表している。
 - 平成 27 年度 企画展「縄文土器の技と美～戸村正己が追及する縄文の心～」(8/1～9/27)
 - 研究紀要「千葉県市内出土の縄文土器を観察する—土器観察カルテの集積に向けて—」(第 42 号)
 - 平成 28 年度 ミニ企画展「土器製作研究のはじまり—新井司郎の土器づくり—」
(11/23～1/29)
- ・平成 29 年度は縄文時代後期から晩期の土器製作技術の分析・研究を進め、企画展示・研究紀要での公表以外の成果の活用も検討していく。